図画工作科の研究について

市川 洋二

図画工作科が目指す「子供が学びをつくる姿」

詳しくは目指す子供の姿シートへ

これまでの図画工作科の研究実践を通して，自分の表したいことを，試したり，つくりかえたりする表現活動の中で，子供たちが自分の中にある色や形，組合せなどの造形的な特徴に対する見方や感じ方，イメージの変化を感じ，造形活動の目的や意味に気付く経験をすることによって，生き生きと創造的に学ぶ子供たちの姿が見られるようになってきました。

また，表現と鑑賞の活動を一体的に行う学習展開を構成することによって，子供たちの感性や想像力は広がり，自分や友達の作品や行為の中にある良さや面白さ，美しさへの気付きが生まれ，生活の中にある作品や文化，芸術に対する興味や関心の高まりにつながっていくことがわかってきました。

そこで，今年度の図画工作科では「子供が学びをつくる」姿とそのための支援について以下のように整理し，授業づくりを行ってきました。

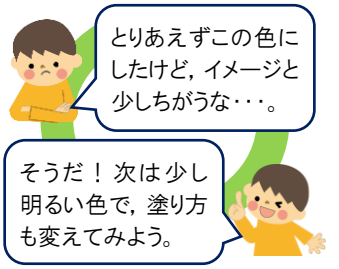
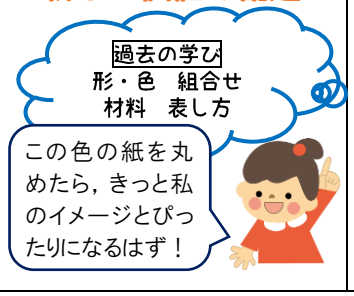
【課題設定】
子供の姿　造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わりながら，表現及び鑑賞の活動に取り組む。
支　　援　表現及び鑑賞活動の見通しをもつ時間を設定する。

【課題追究】
子供の姿　自分自身の感覚や行為を通して，造形的なよさや美しさや，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想したり，作品に対する自分の見方や感じ方を深めたりしながら，対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め，材料や用具を活用することによって表し方を工夫しながら創造的に表現及び鑑賞の活動に取り組む。
支　　援　「感覚」や「行為」をもとに，試したり，つくりかえたりする時間を十分に保障する。

【パフォーマンス】
子供の姿　つくりだす喜びを味わうとともに，楽しく豊かな生活を創造しようとする。
支　　援　パフォーマンスを交流する場を設定する。

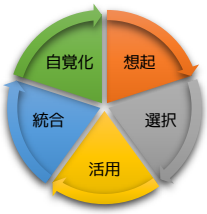
図画工作科研究実践における子供の「自己調整」

詳しくは実践指導案へ

省察 ↓ 学習の転移	ためす⇔つくりかえる  	子供たちは，絵の具，工作用紙，粘土など，手に伝わる感覚を通して色や形，組合せの良さや面白さ，美しさを発見し，自分にとって意味のあるもの・ことをつくりだしていきます。そして，その中で見つけた新しい色や形，組合せなどのイメージを手掛かりに，表したいことや表し方，表す場所を工夫し，創造的に表現する楽しみや喜びを感じるようになっていきます。 このように，造形的な行為と表現のサイクルの中で**試したり，つくりかえたりする時間**を十分に確保し，造形的な特徴から想像したことを対話的に自分や他者と共有し，活動の見通しをもったり，振り返ったりすることで，表現や鑑賞の活動を，主体的に発展させることができるようになります。
	新しい価値の創造  	子供たちは，過去に経験した知識や技能を基に想像力を膨らませ，自分なりのイメージをもって題材と関わり，表したいことや表し方を発展させたり，活動の見通しを修正したりする経験を通して，新しい学びの意味や価値を自覚できるようになります。 カリキュラム・マネジメントや単元展開を工夫し，同一の造形的な視点に着目できるように表現・鑑賞活動を系統的に配置することで，色や形，組合わせなどの造形的な特徴に対する見方や感じ方の広がりを自覚し，子供たちは，それまでの自分の中にはない身の回りの美しいものや優れたものに対する感性や想像力を更新するようになります。（「新しい価値の創造」）

図画工作科研究実践「光と影のインスタレーション」について

経験のサイクル



図）造形表現活動の構造モデル（鈴木敦子 2013）を参考に筆者作成

本実践「光と影のインスタレーション」では，過去の経験が新たな学びをつくる学習過程の原動力として再構成されるよう単元を計画しました。

造形的な見方・考え方を働かせ「経験のサイクル（右図）」を積み重ね，子供自身が「新しい価値の創造」を自覚することによって，未知の造形的活動に向かう期待感を感じながら，連続性のある学びを自らの手と体全体でつくりあげていく造形遊びの実践を目指しました。

子供の姿から

「図工ふりかえりカード」と「つぶやきPad（タブレットに振り返り動画を自撮り撮影します。）」を活用し自己内対話を促します。客観的に表現活動を振り返る場を設定し，感じたことや次の学びに対する見通しを記録していきます。

想起	○ 光の明るさを変える（ライトを変える）と雰囲気も変わる。いろんなものを使うとおもしろい影が作れる。 ○ ものの近さで影が薄くなったり，ボケたりすることがわかりました。 ○ 水をペットボトルに入れて光を当てるときれいになる。色が反射して振ると夜空みたい。 ○ ビー玉をペットボトルの中にいれて光をあてるとビー玉が模様になってきれいだった。	子供たちは絵の具や色水，色セロハン等の混色や組合せ，影遊びなど，造形的な表現活動の経験からイメージや想像力を膨らませていきました。
選択	○ 背景が暗いと透明度を高くして，つくった星の形がきれいに見えました。友達が作った作品をみて，「どうやったら，ああいうおもしろいのをつくれるんだろう」と考えて，最後にやっと似たようなものができました。 ○ 卵パックを光に照らすときれいに見えた。次は別のごみなどでものの影を作ろうと思う。水をポリ袋に入れを棒みたいにして，光を通したら，とてもきれいで海の水みたいになった。次は紙を薄くしてチャレンジしたいです。	試して，つくりかえる過程で，経験を基に着想し，「○すると△になるかも」という期待感をもつことによって，表したいことや表し方をさらに広げたいという意欲につながりました。
活用	○ 最初は魚が動いて見えるように見せたくて，糸を魚につけてゆらしてやってみた。動画を見たら自分の体が半分見えていたから，天井から糸をつるしてやってみたい。 ○ 水の中にセロハンを切って入れて色をつけ，そのカップを何重かに重ねて，その下に光をあててみたら虹色に見えた。今度はそれを背景として使ってみたい。 ○ 自然を使って葉っぱにふれたら，光ってゆれるみたいなセンサーをつけ加えてやってみたいと思いました。	表したことや表し方のイメージが次第にテーマとなり，個々に伝えたいことが生まれていきました。それまでに発見したお気に入りの色や形，組合せや場所の工夫を生かして，対話的に表現と鑑賞の活動が発展していきました。
統合	○ みんなと協力できたし，きれいなものをつくれた。ほかのチームの作品を見てみて，全部すごいものだった。Aさんのチームは「ゆらゆら」という作品をつくっていて，まるでおぼれてしまう夢のように思いました。 ○ 一番うまくいったのがすずらんテープで，くらげの下の部分をつくったときです。ユラユラして羽のようになり，とんでいきそうなくらいたくさんつけたので，手をはなしても大丈夫なのかくらいで，つくったわたしもびっくりしました。 ○ ちゃんと伝えたいことを伝えられたと思う。他の人の作品は似ているけれど，伝えたいことは違った。	表現活動と鑑賞活動が一体的に進行するように学習展開や単元構成を工夫した結果，自己と他者のイメージやテーマを合わせたり，客観的に自己の作品や活動の造形的な特徴を捉えたりする姿が見られました。
自覚化	○ インスタレーションは基準や，これをやるとこうなるなどという限界がない。自由に思ったことができて楽しいことがいっぱいあるとわかった。 ○ インスタレーションは工夫をすれば自分たちだけの作品になったり，すごい作品になったりする。やっていることはいっしょだけど，結果的にできるのはぜんぜん違うから，人の考えはそれぞれ違うんだなと思った。 ○ ストーリーがあると思いました。想像力とイメージが高まりました。造形遊びの作品は残らないけど，将来役に立つためにあると思いました。作品が残らなかったら，より思い出しやすいからです。不思議だと思いました。 ○ 造形遊びは作品に残らないから，人の記憶に残ったりするし，自分の感覚に残るから造形遊びだけのことができる。 ○ 最初は○○をイメージしてやっている，後で次々と発見がでてくるのが，光と影のインスタレーションの良さかと思います。 ○ 造形遊びは自分の思うことが，現実世界でできるから，妄想とか想像とちがって現実感が味わえることに気付いた。	単元の学びを振り返る学習活動を設定したことによって，子供たちはこれまでの学びの中で，イメージと見通しをもって題材や他者と関わりながら，新しい学びの価値を「自覚化」することができました。 光と影による表現に対する知識や理解，それらを自分の思いに合わせて発展的に技能を獲得できたことによって，過去の経験にはなかった感覚や感性，イメージの広がりに気付き，場所や環境，空間を構成するインスタレーションという新たなチャレンジに対してもつくりだす喜びと「新しい価値を創造」する姿が見られるようになったと考えています。

研究から見えたこと

R2実践「みどりの美術館」～葉っぱコレクション，緑の研究～

図画工作科におけるこれまでの研究を通して，「お気に入り（R2研究）」「新しい価値の創造（R3研究）」の発見を主題として実践を積み重ねてきました。お気に入りの色や形，組合せについて話す子供たちの表情はとても明るく，活動の充実や自己の期待感に対する充足感を表していると考えています。それは，おそらく自己の造形的な見方や感じ方を，「自覚化」している姿として捉えることができます。

本実践のように「経験のサイクル」を考慮したカリキュラム・マネジメントを通して，色や形，組合せなどの造形的な視点を基に，試したり，つくりかえたりする活動の中で，自覚化された造形的な見方や感じ方の広がりや深まりを実感が，造形活動の目的や意味，創造的に学ぶことの価値に気付いていく子供たちの姿に出会うことができました。

子供たちの感性や想像力，美意識の変容を見取り，その更新された「新しい価値の創造」を「経験のサイクル」にしっかりと位置づけられた学びの実現を通して，生活の中にある作品や文化，芸術に対する興味や関心の高まりにつながる実践の研究推進がこれからの課題であると考えています。